PTA かながわ

発行者　神奈川県PTA協議会　　事務局　横浜市神奈川区神之木台22-14 県青少年課神之木台分館内　TEL.045-431-6583　FAX.045-430-5025　印刷所 株式会社コンパス

平成26年度定期総会

平成26年度 定期総会並びに PTA広報紙コンクール表彰式を開催

平成26年6月6日（金）ザ・ウィングス海老名にて平成26年度神奈川県PTA協議会定期総会を開催いたしました。約24万の会員の代表として、気を引き締め、新年度のスタートです。

25年度の事業として「かながわPTA宣言」も決議され、神奈川県PTAとしての行動指針を再確認し合い、県内PTAの更なる発展を願いつつ新年度へのバトンが渡されました。（「かながわPTA宣言」の原文は P4 に記載しています）

また、広報紙コンクール表彰式では26校のPTAが表彰され、各々に広報紙作りを通しての工夫や苦労はなしもあり、参加者の方々はみな、達成感に満ちた表情をされていました。本当にお疲れさまでした。そして、おめでとうございます。

「家庭」と聞いて何を思い浮かべますか？

神奈川県PTA協議会　会長　玉野真永

神奈川県PTA協議会では本年度総会におきまして、「かながわPTA宣言」（ウェブで検索ください）を決議いたしました。この宣言文の精神にのっとり、事業展開するための「二つの柱として私たち親の資質の向上」を上げております。「家庭」と聞いて何を思い浮かべますか？

次のような言葉があります。「家はあるが、家庭はない。時間はあるが、ゆとりがない。楽しみはあるが、喜びがない。」いろいろと考えさせられる言葉です。

では「家」と「家庭」には、どんな違いがあるのでしょう。「家」とは、朝出て行って夜には帰ってくる、ご飯を食べて寝るところです。でもそれだけで、他の関わりを持たなくても済むところ、英語で言うと“ハウス”です。一方の「家庭」は、“ホーム”と表現できるのではないでしょうか。ホームという言葉からは、アットホームやスイートホームなど、人と人との関わりの中にある温もりが伝わってきます。ここにハウスとホームの違いがあります。

私たちの家庭はどうでしょう。心配の全くないご家庭も多いのでしょうが、一部では親の仕事が忙しすぎ、家には寝るだけに帰ってくる。子どもたちはそれぞれに部屋があって、普段あまり顔を合わさない。スマホ一台あれば勉強、遊び、コミュニケーション、すべてがひとりで完結し、家族と会話する必要もない。この様な言葉を耳にすることがあります。

子どもたちを取り巻く環境は、急激に変化しており、私たち大人（家庭・地域・学校）は、それぞれの立場で以上に様々な課題を抱えています。

保護者としての姿を客観的に見てみると、子どもと正面から向き合い悪戦苦闘しながら子どもとうまく向き合えない保護者と自分勝手な保護者が増えていることも事実です。このような時代の中、私たちが家庭の教育力の低下を認識することや、保護者としての自覚と子どもとの接し方を自ら学びより高めることが必要です。

本大会は、基調講演並びに、地域と共に素晴らしい活動を行っているPTAの実践発表を通して、子どもたちの目に映る、「私たち自身「大人の背中」が優しくも厳しく頼りになる親になるためには、どうしたら良いのかを参加された皆様と一緒に考えていくために開催いたしました。

今大会は講演会講師に北島尚志氏をお迎えしました。

「私のこと、知ってる人～？」という北島氏の第一声に会場はシーン。講演会は北島氏のショック！から始まりました。ご本人曰く、「一部の方々には人気があり、「綾小路きみまろ」と呼ばれることもありまして…開演するやいなや、会場に笑い声があふれ、和やかな雰囲気につつまれました。

確かに！北島氏のお話は面白く、すべて北島氏が経験した、子どもたちの会話や遊びを子どもたちの動作や口調を真似てお話をされていくのです。子どもたちが、友だちと合意形成しながら遊びを展開していく様子は微笑ましく、思わず吹き出してしまいます。

子どもは、遊びを通して人と人の間で生きて行く力を身につけているのだということ、また、幼児期に行う行動が、大人から見れば無駄で意味のない時間に思えることこそが、人としての成長には必要な時間であるということを話されました。

また、子どもの発達には順番があり、安心感や共感性を経て、相手の気持ちを汲み取る力や想像力の発達がある。年齢ではなく個々の成長段階にあった、本人の経験からの成長があることも大切であるということです。

そして最後に、「人に迷惑をかけてはいけない」と言いますが、そもそも人は、助け合って生きていくものだ」という北島氏の言葉がとても印象深く、慌ただしく過ぎる日々の中で、子どもたちの成長を立ち止まって見つめる良い機会にもなりました。

北島 尚志 氏

PTA雪かき大作戦

「第56回 神奈川県PTA大会」

11月13日（木）相模女子大学グリーンホールにて

大会スローガン

「大人の背中」～優しく、厳しく、頼りになる親になるために～」

伊勢原市の「クルリン」と発表者の皆さん

研究発表

大山こまでつなぐ地域の絆

伊勢原市PTA連絡協議会

今回は伊勢原市における地域とPTAの繋がりを、伊勢原市の伝統工芸品である「大山こま」を使った「いせはら独楽チャンピオンシップ小学校対抗選手権」を通してご紹介します。

伊勢原市内各学校でもPTAのかかわり方はそれぞれ地域性によって違っています。「おやじの会」がある学校や、子どもの頃に独楽で遊んだ大人が残っている地域では、「お手伝いしたい！」という方が大勢おられます。反対に、外部組織のない学校や、新たに開発された住宅地が多い地域などでは、PTAが先頭に立って運営せざるを得ませんでした。

しかし、「地域の文化を継承したい」という保護者世代はじめ、幅広い世代の方々の思いが一致したことで、10年経た現在、徐々に学校の枠を超えた協力体制ができてきました。今では大勢のPTA経験者が「こま大会」に参加して、地域の組織との橋渡しをOBを含めたPTAが担っているといえます。組織の枠・世代を超えた協力者を増やし、年を追うごとに大会が盛大に行われるようになってきました。

今回ご紹介した「こま大会」に限らず、学校と地域、地域の大人と子どものパイプ役としてPTAが活躍し、より良い地域づくりに繋がっていると思います。ほんの一部の市民活動に過ぎないかもしれませんが、この様な活動が、大人も子どもも街を歩けば必ず友達に出会える街「伊勢原」に繋がるものと信じ、末永くこの活動が継続していくことを願っています。

研究発表

ALL KIYOKAWAで育む清川村の教育

清川村PTA連絡協議会

2月15日の大雪の日の事を覚えているでしょうか。

山間に拡がる私たちの地域も例外でなく、少ないところでも30cm以上、中心部で50cm前後、北部の宮ケ瀬地区では1mにも達する程の雪に覆われました。道路網は遮断しバスは3日間の不通、学校も同じく3日間の休校となりました。しかし道路から掻き出された雪は、当然に歩道の上へ。そんな中、お休み中の一人のお父さんが、黙々と歩道の雪かきを進める姿がありました。

それを見た「人のお母さんが応援の声が挙がります。「私たちも何か出来ないだろうか。」「PTAは声をあげられないの。」やがてそれはPTA本部を動かし、お母さんたちのリレーでPTAとしての任意の参加による雪かき作戦開始が伝えられていきました。もちろん当日、多くのお父さんたちは仕事で、集まるのはお母さんや休校で家にいる小中学生、集まった人たちの目には、重機で歩道にかき上げられた大きな雪の塊が写ります。

やがて沿道の家々から、在宅の地域の皆さんの姿が見え始めました。県道除雪に従事する建設会社の皆さんのお手伝いも始まります。学校の先生方はもちろん、役場の職員の皆さんも、沿道の方々の協力も得て、午後からのわずかな時間で、学校から各地へと続く歩道の細道が確保されていきました。

自分の子どものためだけでなく、日々通学する子どもたちのためを思う行動に、地域の人たちが手を貸すことができる。これが「ALL KIYOKAWAが育む村の教育」の現れではなかったか。しみじみとそう思う時があります。

かながわPTA宣言

私たちは、神奈川県公立小中学校のPTA活動を通して、子どもたちの明るい未来のため、家庭・学校・地域において、より良い「大人の背中」を見せられるよう集い学ぶことを目的として活動を行い、次のことについて取り組んでいくことを宣言します。

一、私たち大人は、子どもたちの健やかな成長のため、学校の応援団」として教職員と共に教育環境を整える「共創」の姿勢を伝えます。

一、私たち大人は、家庭・学校・地域が協力し、子どもたちを共に育む「共育」の姿勢を伝えます。

一、私たち大人は、多くの仲間と、生き生きとPTA活動に取り組むことで「協働」の姿勢を伝えます。

一、私たち大人は、相互理解のもと認め合い、そして助け合い共に生きる「共生」の姿勢を伝えます。

《行動指針》

私たちは、かながわPTA宣言に基づき「大人の背中」の実践として、ここに行動指針を定めます。

一、「家庭は躾の場」として、しっかりとした家庭教育が保護者の使命であると認識し、また、学校は学びの場」として学校を支援します。

子育てにおいて最も真実があるのは保護者であり、家庭教育のなかで道徳や一般常識といったことを「躾」として教えていくことを当りまえのことであると伝える。そして、学校では社会に出るための準備として多くのことを学べるよう、その環境づくりに協力をする姿勢を広げていく。昨今のいじめ・体罰問題等、学校に対する厳しい見方があるなかで、先生を軽んじた保護者・子どもが自分本位の行動を起こすといったことを減らし、学校を支えていくために、「子どもの前で平然と学校や先生の批判をしない」、「PTAは学校を理解し、支援するための組織」という考えをあらためて確認し合うために作成した。

一、家庭・学校・地域の一員として互いに子どもたちを見守り育み、また、若い先生の育成に協力をします。

家庭・学校・地域それぞれで「出会い」と「人と人とのつながり」を大切にし、地域社会において、「子どもは地域の宝」という考え方で皆で見守り、温かい目で育てていくことが大切である。また、世代交代により年々増加する新採用の先生に対し、保護者や地域の大人たちが未熟さを批判することをせず、それぞれの経験を生かし、将来を見据えて育成に協力をしていく姿勢を打ち出した。

一、様々な活動を通じて、「やってよかった」、「楽しかった」と感じる人を増やしPTA活動の良さを伝えます。

PTA活動は、ともすれば義務感と負担感が多いボランティア活動といわれるが、結果として「やってよかった、楽しかった」という声を多く聞く。良いことは積極的に伝えて人の輪を広げる。また、学びの場としての学校において、「大人が協働作業をしながら楽しく学んでいる」という「大人の背中」を子どもたち一人ひとりに見せることが大切である。

一、同じ経験を積み重ねることで、互いに理解し信頼しあえる人間関係を広げていきます。

PTAには様々な考え方の保護者がいるが、お互いを理解し尊重し合う姿勢が大切である。学校に集い、子どもたち、保護者自身のための活動を通して話し合い、同じ体験を積むことで信頼できる人間関係が生まれ、それが生涯の財産となる。そしてその人間関係が学校や先生の最大の理解者となっていくことを伝える。

異国情緒豊かな長崎で集い、語らい、学びあい

第62回　日本PTA全国研究大会　長崎大会　8月22日･23日

35名参加！よかとこでした 長崎！！

1日目は長崎市、佐世保市、諫早市、大村市、島原市の5市にわたり、10の分科会が開催され、2日目は長崎市内の長崎県立総合体育館、長崎ブリックホールの2会場に、全国から総勢約8，000人の会員が集い、日々の子育てを振り返り、また今後のPTA活動に活かすべく夫々に多くのお土産を持ち帰りました。

さささえ合い いのち尊び たくましく まごころつなぐ 子どもたちに

第46回　関東ブロックPTA研究大会　さいたま市大会10月25日･26日

心のきずな61教育支援基金（日本PTA事業）

東日本大震災の被災地の子どもたちのことを忘れることなく、新たな支援の手を差しのべるとの思いを込め創設しました。日本PTAの、公益目的事業である「教育助成支援事業」として、被災地の教育環境を整え、子どもたちの健全な育成に寄与することを目的とします。（詳細は日Pホームページをご覧ください。）

―神奈川県PTA協議会はこの事業へ全面的に協力をしています。―

今回の大会には、神奈川県Pから85名が参加！

1日目は8つの分科会（①地域連携 ②安心・安全 ③健康 ④家庭教育 ⑤人権 ⑥組織・運営 ⑦伝統文化A ⑧伝統文化B）が開催されました。

第7分科会の「伝統文化A」では、神奈川県Pから、伊勢原市PTA連絡協議会の皆さんによる「大山こまでつなぐ地域の絆」の発表がされました。（P1下段参照）2日目は「ココロとカラダに優しい歌楽」と題した歌手の沢田知可子さんのトークとコンサートでした。沢田さんの歌声は心に響き渡り、息の合ったご主人とのハーモニーに会場中が癒され、素晴らしい「歌の時間旅行（沢田さん日々）」に行ってきました。

編集後記

PTAかながわ第86号発行にあたり、担当の見える化委員だけではなく神奈川県PTA役員全スタッフに協力いただき今号発行に至りました。作成にあたり重要視したのは、担当委員会と事務局との連携で、特に情報の共有です。忙しい中、メンバー皆で支えあい発行することができました。『感謝の一言』です。

今回の号は、特集記事として県内PTA加盟校小規模校・大規模校をピックアップして同じ県内でも色々な学校PTAがあることを知っていただき、この記事をご覧いただいた保護者の皆様が個々にご自身の学校との違いを感じていただければ幸いです。PTA事業内容や運営委員の人数は違っても、大多数の方々はご自身のお子様の通う学校環境を良くしたいと思う気持ちは一緒ではないでしょうか？

どのやり方が一番とかではなく答えは複数あって良いのではと思っています。この特集記事が単位PTA様それぞれの一助になることを願っています。

今回、記事の提出にご協力いただきました各学校長を始めPTA会長様・本部役員の皆様に心から感謝申しあげます。

紙面の関係で掲載できない内容をホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。今後ともPTAかながわをよろしくお願いいたします。

見える化委員会
委員長　遊部　裕司　・（副）太田　朋子
・　益田　麻衣子

神奈川県PTA協議会 安全互助会ご案内

神奈川県PTA協議会に所属する小・中学校PTAが団体として加入する保険です。

年会費＝1世帯100円

PTA活動中に生じた傷害・事故に保険金・お見舞金を給付いたします

◆傷害保険◆　●保険金（保険会社より）……入院日額3,000円・通院日額1,000円　●お見舞金（安全互助会より）……入院10,000円・通院5,000円

お支払い事故例	保険金	お見舞金	お支払い総計
PTA主催ドッヂボール大会で、試合中に人と接触し転倒。足の腱を断裂して5日間入院し、20日間通院した。	入院 15,000円 通院 20,000円	入院 10,000円 通院 5,000円	50,000円
役員会終了後、帰る途中に転倒。腕を骨折し14日間通院した。	通院 14,000円	通院 5,000円	19,000円
バレーボールの練習中に突き指をして1日間通院した。	通院 1,000円	通院 5,000円	6,000円

◆賠償保険お支払い事故例◆
・ＰＴＡ主催のソフトボール練習中、打ったボールが学校の窓ガラスを割ってしまった。
・ＰＴＡ主催のお祭りで荷物を運ぶ際、止まっていた車に傷をつけてしまった。
・PTA行事のため、学校から借りていたテントが風で飛ばされて壊れてしまった。

資料請求・事故報告のご連絡は　安全互助会 事務局
電話：045-431-6584　FAX：045-430-5025

『かながわ子どもセイフティプラン24』（こども総合保険・自転車総合保険）

当制度は、児童・生徒のケガや賠償事故等、日常生活中に想定される様々なリスクに対応した制度です。
『かながわ子どもセイフティプラン24』の7つの特長　●このご案内は、制度の概要を説明したものです。詳細は下記のお問合せ先までお問い合せください。

特長その1　お子さまがケガをした場合の治療費用を補償（健康保険の3割自己負担分、差額ベッド代、入退院時の交通費など）
特長その2　補償期間（保険期間）中、1日24時間（学校の休みの日も）補償
特長その3　お子さまが日射・熱射によって熱中症を発病した場合を補償
特長その4　地震・噴火・津波によるケガも補償（一部プランを除く）
特長その5　自転車事故に備えた自転車事故充実補償プラン（オプション）をご用意
特長その6　適用される割引率 約51%割引（平成26年度実績）
特長その7　掛金は便利な口座振替で、中学卒業まで自動更新が可能
（注：私立中学校および神奈川県PTA協議会非会員校に進学された場合は更新できませんのでご注意ください）

※当制度にご加入を希望される方は、右記の【当制度のお問合せ先】までお問い合せください。
2014年11月現在の内容です。

【当制度のお問合せ先】
取扱代理店／株式会社ジーアンドケイ・アソシエイツ
神奈川県PTA協議会
『かながわ子どもセイフティプラン24』係
0120-115-852
（9:00～17:00:土･日･祝日･年末年始を除く）
引受保険会社:AIU損害保険株式会社

A-000495　2015-11